

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 英語のみによる学位コースの設置により一層の国際化を図る。	→留学生数。	D
2. 教育研究の国際交流を緊密化する。	→国際会議、シンポジウムへの参加者数。	B
3. 国際人として相互理解を育む機会を拡大する。	→教員及び大学院生の海外派遣者数・海外からの研究員の受入数。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 7.0.1	(方針) 関西学院大学の国際交流の方針は、新基本構想の新中期計画に「多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する」とうたわれている。この方針に基づき、国際教育・協力センターと連携して国際交流を進めている。しかし現在、理工学研究科独自の国際交流の方針は明示されていない。
☆ 小項目 7.0.2	(現状説明) 理工学研究科の目標である英語のみによる学位コースの設置、教育研究の国際交流の緊密化、国際人として相互理解を育む機会を拡大という点を中心に説明する。 英語のみによる学位コースは、2012年度からの開設を目指して理工学部国際交流推進委員会でカリキュラムの内容など詳細な検討が行われた。理工学研究科への2009年度の外国人（教員・研究員）の受け入れ状況はほぼ例年通りである。2009年度は客員教員4名、客員研究員1名、受託研究員6名、博士研究員6名、外国人特別研究員3名（受託研究員と重して受入）である。 これらの方々による理工学部講演会の回数は8回である。また、インドネシアのサティヤ・ワチャナ・キリスト教大学とのツィニング・プログラムによる大学院特別学生数は4名である。 一方、理工学研究科の教員による教育研究成果の外部への発信については、多数の英文による論文発表の他、国際シンポジウム・国際会議の開催などがある。特に短期（1年未満）の国際学術研究交流で派遣された教員数は67名であった。 また、2008年度に理工学部と吉林大学生命科学院が生命分野における教育・研究連携を強化するための協定を結んでおり、9月に行われた関西学院大学と吉林大学の第3回日中経済シンポジウムのセッションにおいてバイオサイエンス分野での提携や活性化について討議がなされた。 外国人留学生の正規学生（一般入試や外国人留学生入試で入学した学生）は8名、交換留学生は1名であった。2005年度からの人数の推移を見ると増加傾向にある。
☆ その他	理工学部国際交流推進委員会が2009年秋から設置され、理工学部・理工学研究科に関わる国際交流の案件を検討している。

## 《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【理工学研究科】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	5	5	4	8	8	
			交換	人	0	0	0	0	1	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	3.5	2.0	1.4	3.1	2.9	外国人留学生(正規)÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	外国人留学生(非正規)÷在籍学生数
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—				
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—		
		人 数	長期	人	0	0	0	0	0	
			短期	人	0	0	0	0	0	
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	0	0	0	0	0		
		短期	人	0	0	0	0	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	0	0	0	0	0		
		短期	人	0	0	0	0	0		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	—		

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む

注) 長期、短期について

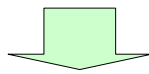
指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



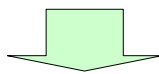
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 7.0.1	理工学研究科の国際交流方針が明示されていない。
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 7.0.1	理工学部国際交流推進委員会で、国際交流の方針の策定、ホームページ上での公開について検討していく。
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他  
(自由記述)

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○英語のみによる学位コースの検討や教員や学生の交流など積極的に行われており高く評価できます。学部と同様にそれらを「目標」として定めることを検討されることが期待されます。

## 【学内委員】

○教員の国際交流は盛んであることが拝察されます。また海外からの学生の受け入れも着実に進んできておりますが、理工学研究科の院生の海外派遣の状況はどうなのでしょう。その事の自己点検評価が望まれます。

○教育研究に関する国際交流に関して、国際学会での発表や海外の研究所との交流は順調に進展しています。ただ、理工学研究科独自の国際交流方針はまだ明示されておらず、英語による学位コースの設置も準備中のようです。これらの点に関しては、順次計画を進めていくことが望まれます。また、留学生の絶対数もまだ多いとは言えず、積極的な留学生募集を行うことが望まれます。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

## 0.2 (現状説明)

★ 成果を得た大学院生は海外の研究集会での発表を精力的に行っている。人数の把握は2010年度から実施する計画である。

## Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
